



吉川市立東中学校 学校だより

あいさい

<https://www.yoshikawa.ed.jp/higashi-jh>

令和7年5月号

全校生徒数 288名
〒342-0017

住所：吉川市上笹塚 3-104-1

TEL：048-982-0244



心と心をつなぐ架け橋 ～「あいさつ」について～

校長 伊東 猛

新緑のまぶしい季節となりました。新年度がスタートして一か月が過ぎようとしています。生徒たちは新しい環境の中で、それぞれに精いっぱい努力を重ねている姿がうかがえます。五月は、学びに向かう姿勢や生活習慣がより定着してくる時期です。今後も新しい生活の中で一人一人の成長を温かく見守っていきたいと思います。

この時期は、新たな友達や先生とのかかわりが増え、人間関係が形づくられていく大切な時期でもあります。そんな中で、私が大切にしたいと考えているのが「あいさつ」です。

私たちが日々何気なく交わしている「あいさつ」ですが、その「あいさつ」について調べていくと、これは単なる形式的な言葉ではなく、たくさんの方の思いや心遣いが詰まっていることがわかります。

もともと「あいさつ」という言葉は、禅の修行の中で使われた「一挨一拶（いちあいいつさつ）」という言葉が語源とされています。漢字の意味を見ていくと、「挨」は「心を開く、互いに近づく」という意味が、「拶」には「迫る、心に近づく」という意味があります。つまり挨拶とは人と人が出会い、お互いの心を開いて相手に寄り添っていくという意味合いのある言葉であると言えます。

また、そんな「あいさつ」ですが、朝には「おはようございます」、昼には「こんにちは」、夜は「こんばんは」とあいさつをします。この三つのあいさつの中で、ひとつだけ特別なもの、他とは違うものがあります。それは、「おはようございます」です。なぜかという、おはようございますだけは「おはよう」に「ございます」という丁寧な言い方が付くからです。なぜ、「おはようございます」にだけ、丁寧な「ございます」という言葉が付くのでしょうか。

「おはようございます」というあいさつは、「歌舞伎（かぶき）」から始まったと言われています。「歌舞伎」は、400年くらい前に始まった、日本の伝統的な芝居で、派手な服装と化粧が特徴です。歌舞伎役者は、化粧や衣装の準備に時間がかかるので、お芝居が始まる時刻より、かなり早くに芝居小屋にやって来ていたそうです。その時に、芝居小屋で働いている裏方の人たちが役者さんに対して、いつも「お早うございますね」と声を掛けていたそうです。これは「いつも早く来て準備をして大変ですね。」という意味だそうです。この「お早うございますね」という言葉は、あいさつというより、相手を大切にする「思いやり」の気持ちが強く含まれた言葉かけだったそうです。この「お早うございますね」が、いつしか「おはようございます」に変化したと言われています。

普段使っている「あいさつ」ですが、いろいろ調べていくと、400年以上前から相手を大切に思う気持ちが込められていることがわかります。「あいさつ」は心と心をつなぐ大切な言葉です。思いをのせたあいさつを交わしながら、東中を真心いっぱいの学校にしていきたいと思います。